

---

# もう一人の死神代行

水風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

もう一人の死神代行

### 【NNコード】

N0422Z

### 【作者名】

水風

### 【あらすじ】

藍善の反乱から5ヶ月がすぎ、何事もなかつたかのよつに過ぎて  
いく時間。

しかし、突然現世にまたもや事件が！  
(一護が死神の力失つたとかは無視してね！)

## 死神代行黒崎一護！（前書き）

いつものように、虚退治に終われる死神代行黒崎一護。しかし、突然の出来事であつた後ろから突然切られ。瀕死状態となつてしまつた一護。しかし、魔法を使う一人の少年に助けられるのであつた

## 死神代行黒崎一護！

「仕方ないな、こんなところで使う事になるとは、思わなかつたなあ～吸い込み開始！」

そのかけ声とともに彼の手の平へと吸い込まれる一護。一体この少年は何者なのか？

時間がすぎていき、6時間後。

「ん？ ここ、どこだ？ 何も見えねえ。なにかに閉じ込められてんつておわ～！！！！！」

一護が、またもや吸い込まれ、彼の手の平から出てきた。

「つててて！ つてここ浦原商店か！ ？ なんでここに？ つてあれ？ そいえば俺誰かに切られたような？」

「あの～？」

とつさに一護は振り向き、後ろを見た、するとそこには知らない小中ぐらいの少年が立っていた。

「お前、誰だ？」

「え～と、たまたま通りかかった人ですが、その格好は死神？ ですか？」

一護は驚いた、こんな少年が死神の事を知っているなんて思いもしなかつた。

「彼は、あなたを助けた人ですよ～黒崎サン。」

自分の名前を呼ばれた一護は、またもや振り向くと、元12番隊隊長ならびに、初代技術開発局局長、浦原喜助が座っていた。

「浦原さん！ つて俺が助けられたってどういう事だ？ てゆうかこんなひょろひょろなガキに俺をおぶつてここまでくるつて無理な話しじや… つてこいつ！ 死神の姿が見えてんのかよ…？」

今頃気づいた一護をほつといて浦原が話しを続ける。

「彼はおぶつていったんじやなくて、空間移動能力を使って手の平に吸い込ませ別次元に飛ばし、それでここに戻したっていう事です

よ

一護は話しつついていけなくなり首を傾げた。

「つまり、あなたを手の平のどこでもドアを使って別の場所に移動させてここに移動させたつていう感じですかね?」

何となく状況を理解した一護は、この少年が何者なのが分からなくなつて来て、とりあえず問い合わせた

「お前、何者だ?」

そう、問い合わせられ、自己紹介をした。

「僕の名前は、水谷紘。魔法が使えるのが特殊能力で、別世界から来た。僕の住んでいたのは地球だつたけどある組織に招待されて、今はそこで暮らしているんだけど上からの命令でソウル ソサエティの手伝いに来た。てゆうかさつき来たばかり何だけど…なんだかあなたを別世界へ移動させている途中でなんだか、とても気持ちよい感覚になつたんだけど…」

一護は、その気持ちよい感覚とゆうのはとりあえず後まわしにして、その別世界の事を聞くつと思つたが、浦原に先をこされた。

「そうそう、それでさつきの話の続きなんですが…

ふと思いだしたように水谷が表情を変える。

「ああ、僕が来たところは、ミッドチルダといつところで魔法文明が発達してて、僕はその魔導師として働いていてですね、それですね。僕達はリンクカー ロアつていう靈力の源のさけつみみたいなものです。まあだから死神の姿が見えるというわけです。」  
かなりの話の長いもので一護はせっぱり分からなくなつていた。浦原は理解出来たようだ。

「あ、そうだ、これ渡したいんスけどちよつといつちに来て下さい。

「一護はふと、気づき、さつきの気持ちよい感覚の正体を考えていたが、すぐにその必要が無くなつた。  
なぜなら、

彼が浦原の杖によつて魂が抜かれ、その姿は

死神だったのだから。

## 死神代行黒崎一護！（後書き）

新しく書きました。

BLEACHと魔法少女リリカルなのはの「ラボなんですが、なのはやはやてが出るのはまだ先という事になってしまいますが。もちろん水谷紗つてオリキャラですよちなみに読み方は「みずたにひろ」となりますが、ラーメン食いながら適当に付けた名前です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0422z/>

---

もう一人の死神代行

2011年12月1日18時50分発行